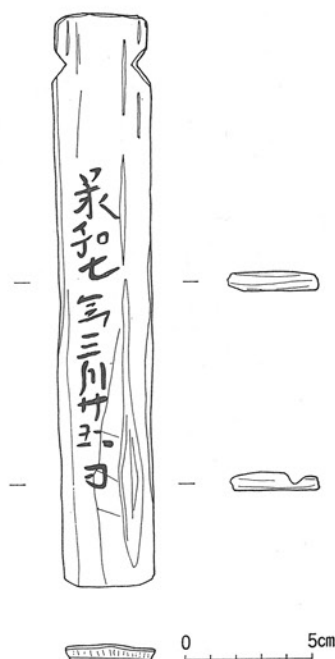


鵜島三壽「千代川遺跡 第13次」(勸京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府埋蔵文化財情報』第二八号 一九八八年)

(土橋 誠)



京都・矢谷^{やだに}遺跡

- 1 所在地 京都府天田郡夜久野町大字板生(今西)小字矢谷
- 2 調査期間 一九七三年(昭48)四月
- 3 発掘機関 (表面採集)
- 4 調査担当者 安橋富男(発見者)
- 5 遺跡の種類 不明
- 6 遺跡の年代 不明
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

矢谷遺跡は、板生谷と呼ばれる谷のほぼ最奥部にあり、牧川左岸側の尾根の比較的緩かな傾斜の突端に位置する。地表に口縁部を露



(出 石)

出した陶質の壺の中に、銅鏡一面の表裏を保護するような形で二枚の杉材の円板が重ねられており、この円板から文字が発見された。壺は口縁のつくりから鎌倉時代末頃のものと考えられ、壺を埋めるための施設などはみられず、地山に直接埋

志